



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた  
見やすいデザインの文字を採用しています。



ノンVOC(Volatile Organic Compound)インキ  
大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。  
大気中への有機化合物の揮発はほとんどあり  
ません。



FSC® 認証用紙  
この印刷物には、FSC® 認証用紙が使用されて  
います。



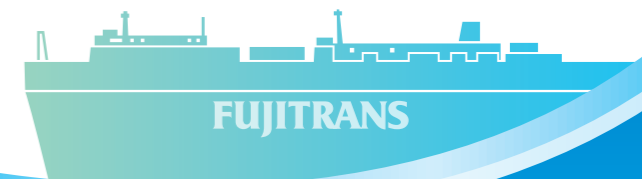
Waterless  
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で  
印刷しています。

フジトランス コーポレーション

2018年7月発行

本社  
〒455-0032 愛知県名古屋市港区入船一丁目7番41号  
TEL:052-653-3111 FAX:052-652-7110  
<http://www.fujitrans.co.jp/>

FUJITRANS



CSRレポート

FUJITRANS CORPORATION CSR REPORT 2018

2018

Safety  
Management

Quality  
Control

Compliance

「和」でつなぐ人と社会

Environment  
Protection

Social  
Action



# 目次

Contents



- 02 CSR方針／運営体制
- 03 トップメッセージ
- 05 会社概要
- 07 【特集】  
日本のものづくりを  
物流品質で支えます

## 法令遵守への思い

- 11 個人情報保護法の説明会  
コンプライアンス強化月間
- 12 コンプライアンスアンケート調査  
勉強会の実施
- 13 通関士勉強会  
過重労働・ハラスメント問題勉強会  
弁護士相談の実施
- 14 健康講話会・個別健康相談会  
内部監査の実施

## 安全の追求・品質の向上

- 15 安全衛生管理体制
- 16 「ゼロ災」キャンペーン  
酸素欠乏症防止キャンペーン
- 17 フォークリフト安全運転強化キャンペーン  
緊急時海陸通報訓練
- 18 経営トップ 乗船安全点検  
船舶緊急訓練
- 19 ISO/OHSAS勉強会  
安全・安心職場づくり報告会
- 20 リスクを予見した安全啓発  
事務作業ミス・トラブル防止

## 環境への取り組み・社会地域とともに

- 21 放流活動  
足船清掃
- 22 新入社員グリーンオリエンテーション  
清掃奉仕活動  
ISO周辺美化活動
- 23 小中学生社会見学  
物品収集ボランティア
- 24 現場見学会  
児童福祉施設支援  
交通安全街頭立ち会い

- 25 2017年度CSR活動実績



## CSR方針

フジトランス コーポレーションは、「『和』の精神」を社是に掲げています。「和」とは、人の和を尊重し全体的な信頼と協調を基に一致団結する「内なる和」と、地球環境・地域社会・お客さま・協力会社との調和・協和・融和を基にした「外なる和」の二つから成り立っています。

その精神のもと、社員がお客さま・地域社会とともに成長していこうという思いを込め、CSR方針を「『和』でつなぐ人と社会」と決めました。そして、私たちがCSRを実践すべき三つの活動領域を設定し、それぞれに分会を設けて活動を推進しています。

### 企業として取り組むべき領域

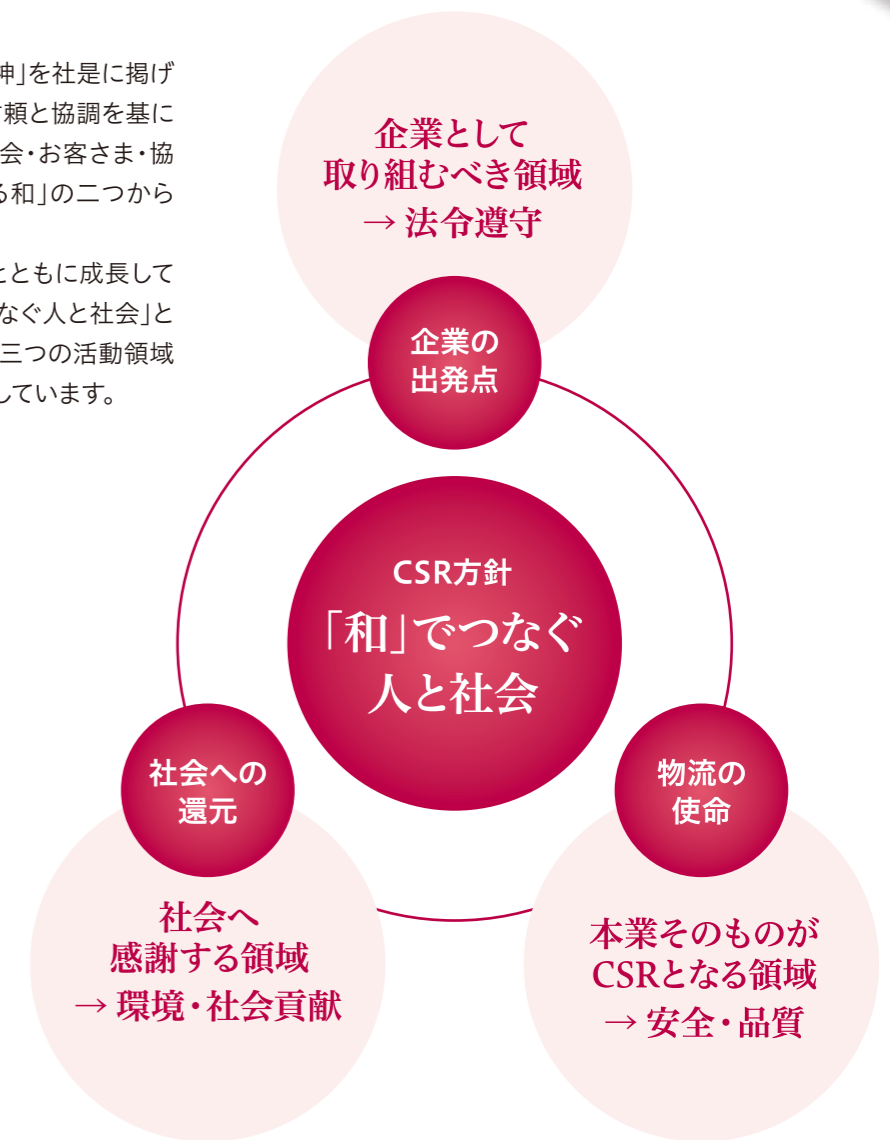
- 法令と社会規範を守り、常に誠実で公正な活動を行う。
- 企業は社会の一員であり、良き企業市民として成長・発展していく。

### 本業そのものがCSRとなる領域

- 物流事業者の使命として、安全で高品質なサービスの提供をする。

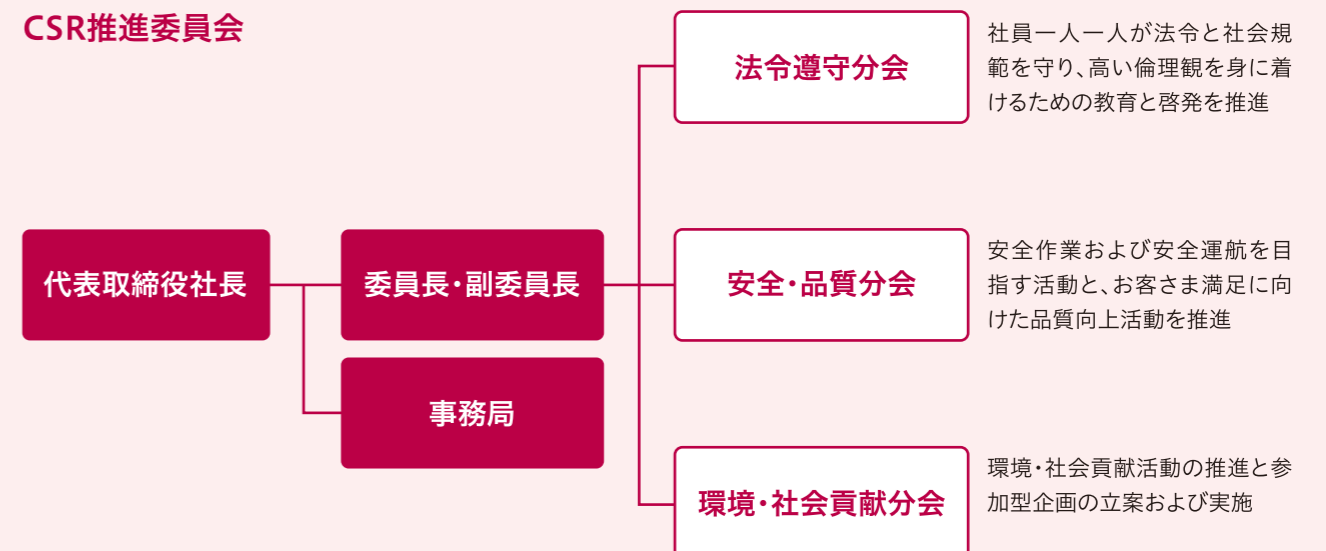
### 社会へ感謝する領域

- 地球環境に配慮し、快適な社会と地域づくりに貢献する。
- 社会から学んできたことに深く感謝し、社会の期待や希望に応えていく。



## 運営体制

### CSR推進委員会





トップメッセージ

# 「『和』の精神」でCSRを実践

代表取締役社長 系井辰夫



## 創業精神につながるCSR

当社は、創業以来受け継がれてきた社是「『和』の精神」のもと、社内外のステークホルダーの皆さまとより良い関係を構築し、社業を通じて地域・社会と共に発展してきました。そうして半世紀以上引き継いできたマインド・姿勢をCSRという概念に当てはめ、「『和』でつなぐ人と社会」というCSR方針を掲げています。

「CSR」という言葉こそ比較的新しいものですが、当社が取り組むべきこと、そして、その目的や意義は昔から変わりません。つまり、一法人として社会に対して公正・誠実であり、物流業者と

して社会に価値を提供し続け、社会の一員として地域社会と共存し貢献することが、創業当時の当社のあり方です。これらを法令遵守、安全・品質、環境・社会貢献の3つの領域に分け、それぞれ取り組んでいます。

## 3つの領域で推進

第一に、法令遵守、つまりコンプライアンスは、個人が社会生活を送るうえで法律や規則に従っているのと同じように、法人にとっても当然守られるべきことです。事業を遂行するには国や地域、業界、許認可などによって異なるさまざまな関係法令を理解し、適応しなければなりま

せん。また、近年は企業による不祥事が頻発していることから、コンプライアンス意識に対する社会の目が厳しくなっています。当社では、社員が関係法令を認識し、学び、理解度を測って自らの業務に生かせるよう、研修の場を充実させています。

第二に、物流業を営み、お客さまからお荷物を預かる立場として、安全と品質、人材育成は事業の土台であり、使命と捉えています。安全の取り組みは、お預かりした貨物のみならず、従事する社員や取引先を守る行為でもあります。当社では、年間を通じて安全教育や訓練、現場巡回による点検を行っています。また、改善活動を通じてさらなる安全を追求しています。そうした取り組みの積み重ねが、作業の品質を確保し、サービスの向上につながっています。

第三に、環境・社会貢献の領域です。創業以来、当社は取引先やお客さま、地域社会の皆さまに支えられ、事業を続けることができています。当社を受け入れ、生かしてくださった方々に感謝し報いるために、サービスの充実は言うまでもなく、本業以外でも社会の一員としてできることを模索しています。例えば、当社の事業フィールドである海や、その上流にある森林を守る活動。また、事業所を置く地域社会の美化や、物流業界を担う次世代を育てる活動。こうした取り組みの実践により、地域とつながり、社会に貢献しています。



## これからも、社会と共に

当社が名古屋港で事業を興してから、昨年で65年を迎えました。その間、当社の事業分野は多岐に発展し、サービスを提供する地域は名古屋から国内全域に、そして海外にまで拡大してきました。一方で、国内経済や世界情勢も絶え間なく変化しています。特に昨今は世界全体が混迷の時代を迎えており、先行き不透明な状況下、お客さまをはじめ業界の多くの企業も暗中模索しています。

こうした内外の変化に晒されながらも、私たちが創業の精神を忘れることは決してありません。社会とつながり、社会を支え、社会に求められる存在として価値を提供し続けるために、これからも私たちの使命を愚直に果たして参ります。



# 会社概要

## Company Profile

当社は1952年に名古屋市港区で創業した総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は内航船舶を運航する船社でもある点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代のモータリゼーションによる需要の増大を的確に捉え、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸(とうちょうまる)」を就航させることで内航海運業に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものにしました。今日、北海道から沖縄まで国内約20拠点を有し、海陸一貫で車輻・一般貨物輸送を行っています。

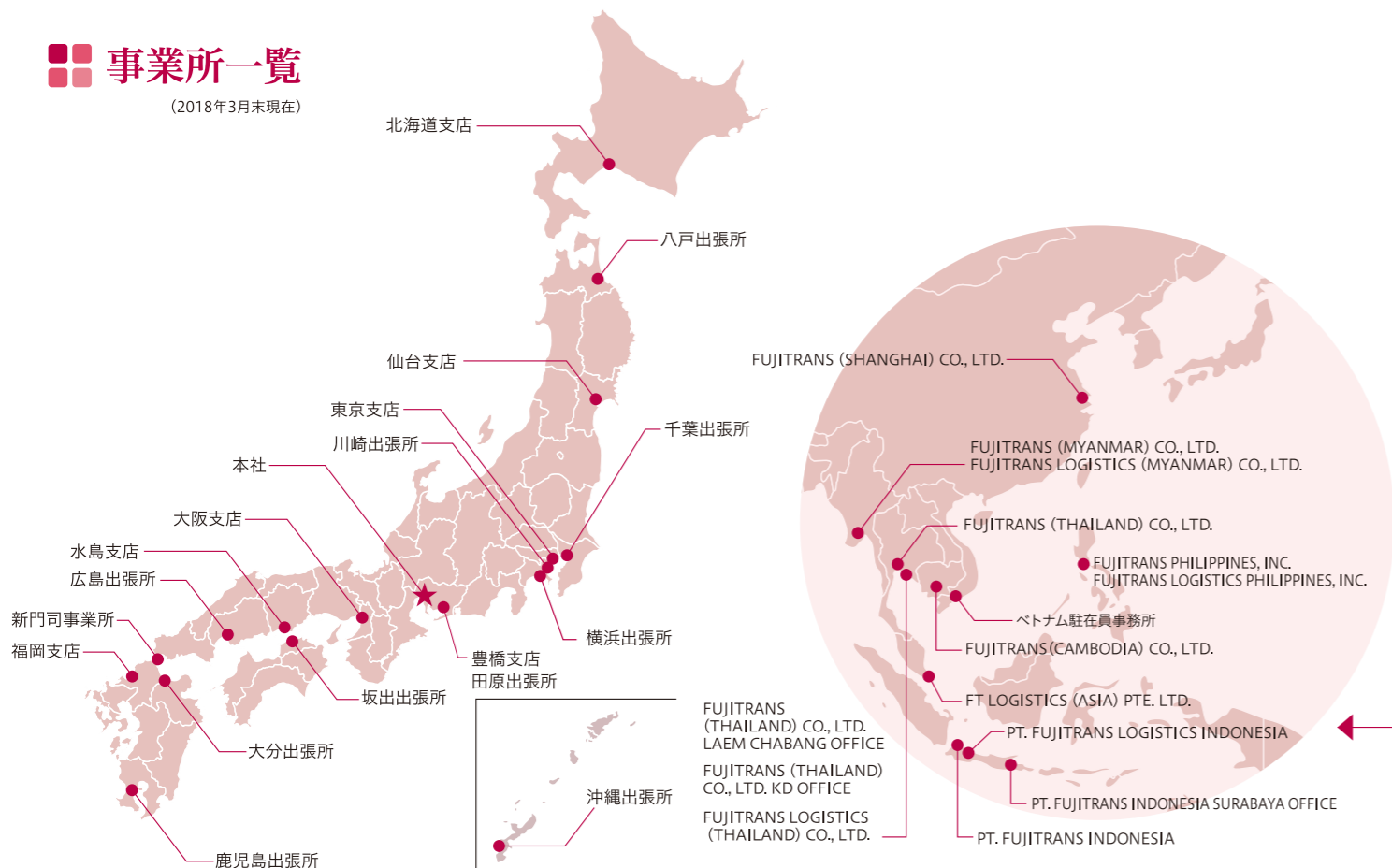
一方、輸出入の取り扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んでいます。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げたことから始まり、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などに業容を拡大しました。今では北米、欧州、中国・東南アジアの14カ国でサービス展開しています。

これらのネットワークを駆使して、完成車(乗用車、農機、建機など)や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

名称	株式会社フジトランス コーポレーション
本社所在地	〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
設立年月日	1952(昭和27)年9月29日
資本金	2億円
代表者	代表取締役社長 系井 辰夫
従業員数	1,272人(2018年3月末現在)
主たる営業種目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 港湾運送事業</li> <li>● 内航海運業</li> <li>● 貨物利用運送事業</li> <li>● 航空運送代理店業</li> <li>● 通関業</li> <li>● 倉庫業</li> <li>● 梱包事業</li> <li>● 海上運送業 他</li> </ul>

## 事業所一覧

(2018年3月末現在)



## 事業ハイライト (2017年度)

2017年4月

ベトナム駐在員事務所が稼働

ベトナムでの物流事業化の調査を目的に、駐在員事務所が本格稼働した。

2017年9月

創立65周年

1952年に藤木海運(株)として創立してから、65周年を迎えた。

2018年1月

新造船が命名・進水

三菱造船(株)下関造船所で建造を進めていた新造船の命名・進水式を行い、「ふじき」と命名した。

2018年2月

本社事務所を一時移転

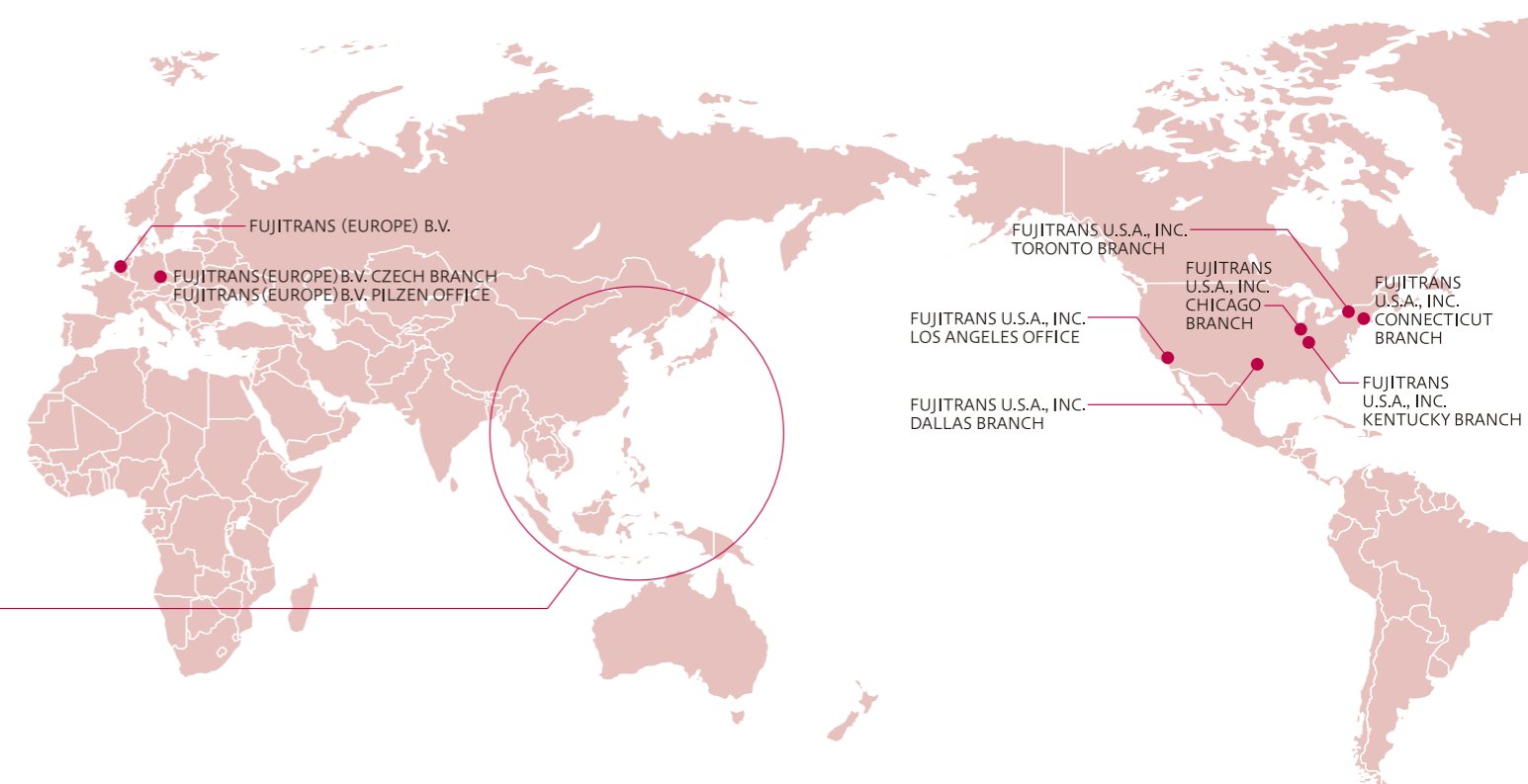
本社建物の増築工事のため、一時的に本社機能を近隣の事務所に分散移転させた。

東京支店を移転

移動の利便性とセキュリティの強化のため、東京支店を東京・東銀座から八重洲に移転した。



進水する「ふじき」







特集

# 日本のものづくりを 物流品質で支えます

私たちは、「米粒からロケットまで」を合言葉に、多彩な“モノ”の物流を担っています。  
当社が得意とする自動車や航空機、ロケット、設備機械、さらに日用品や紙製品、家電など、あらゆる貨物輸送を通して日本のものづくりや、世界の産業を支えてきました。

必要なモノを、必要な時に、必要なだけ、安全・確実にお届けする。  
この「物流品質」の高さこそが、私たちの最大の強みだと自負しています。  
今回は自動車の物流を例に、当社の物流品質を支えるプロフェッショナル達から4人をご紹介します。







車輦営業部  
出口 元紀さん

【積み付けプランナー】

## 自動車の積み付けプランの立案者

その日、船に積む自動車の保管場所が間違っていないか、1台ずつチェックするのが、1日の作業の始まりです。誤った仕向け先に輸送してしまわないための大切な作業です。タイヤなどの状態も一緒に確認します。

船への積み付けプランは、仕向け地や車種、車体サイズなどを考慮してその日の朝に決めています。注意事項がある場合、事前に現業員に伝えます。例えば、潮汐とランプウェイの角度を考慮して、車高の低い車を積み込むタイミングを指示したり、特殊な車輦は駐車する場所を指定したりします。プランを立てても荷役中に積む台数が

変わることもあるため、現場に出て、作業中も現業員との連携を密にしています。

海の近くで育ったこともあり、この現場で働けることを誇りに感じます。次の港やさらに次の港での揚げ積みの効率まで考え、お客さまから預かった自動車を安全に運べるように手配をしています。



## 自動車の海上輸送を支える4人のプロフェッショナル

日本全国で生産された自動車の国内海上輸送のハブ港である名古屋港潮見埠頭。

ここには、総延長約600mの自社岸壁と、自動車約6,800台を保管できるモータープールがあります。

工場から積載車によって港まで運ばれた自動車は、仕向け地ごとに分けてモータープールに一時的に保管されます。

多い日には、約3,500台の揚げ積みをする現場で、どの自動車を船内のどこに何台積み付けるかという基本計画を立てる「積み付けプランナー」。

船内で効率良く船に積み込む指揮をとる「ハッチボースン」。

安全に、そして正確に所定の位置まで自動車を運ぶ「ドライバー」。

自動車が積み込まれた大型船を目的地まで運航する「船員」。

お客さまからお預かりした大切な貨物を、安全・迅速にお届けするために、多くのプロフェッショナルが日夜奮闘しています。



現業部  
梶野 宜司さん

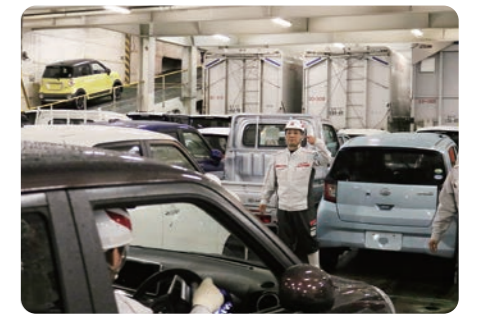
【ドライバー】

## 正確な技術で運転するスペシャリスト

ハッチボースンの指示に従って自動車を運転し、船内に運ぶのが私たちの仕事です。自動車は他の貨物とは違い、梱包しないで運ぶため、ドライバーの責任は重大です。壁や他車にぶつけないのは当たり前。作業服が汚れていないか常に注意し、車内でも、最低限の部分にしか手を触れません。

私が最も注意しているのは、集中力を保つことです。同じ作業を繰り返すため、時間が経つにつれ集中力が途切れそうになります。そのため、監督からの指示には常に大きな声で返事をするなど、自身に気合いを入れています。

ドライバーの世界は体育会系で、上下関係も厳しいし、若い頃はよく注意を受けました。でも、それはお客さまの大切な自動車を扱うという責任があるからです。



現業部  
服部 哲大さん

【ハッチボースン】

## 現場の流れを作る指揮官

当社では、多い時には一日約3,500台もの自動車を取り扱います。自動車にもさまざまな種類があり、大きさや仕向け地もバラバラです。これらを効率良く安全に船に積み込む、あるいは陸揚げするための指示を出すのが私たちハッチボースンです。

この仕事で最も大切なのは、瞬時の判断力です。限られたスペースにより多く船積みできるよう、形状を計算して船のフロアや位置を指示したり、新人ドライバーには船積みしやすい場所に行くよう指示したり、一日中心配りを欠かしません。

数百台の自動車が自分の計算通りに並

んだ姿を見ると、大きな達成感があります。そして何より、私たちが力を合わせて積み込んだ自動車を、全国のお客さまが楽しみに待っていただいているという実感が、私たちのエネルギー源です。



鹿児島船舶株式会社  
織田 佳子さん

【船員】

## 貨物を安全に海上輸送する航海士

船を安全に運航させるだけでなく、積んだ貨物を安全に目的地に運ぶまでのあらゆる管理をするのが、私たちの仕事です。

荷役中、船に貨物を乗せると重い方に傾きます。そのため、一方に傾かないよう前後左右の傾きを常に確認して調整しています。また、事前に気象条件を把握し、ラッシング（貨物の固縛）強化の依頼や積み付け位置の相談をしています。

航海中は、漁船などの周辺の確認や、30分ごとに本船の位置を把握します。悪天候の時には、動揺による貨物への影響がないよう、針路や速力を考慮しながら航海しています。また、定期的に船内を点検して、貨物

や船体に異変がないかを確認しています。

チョッサー（一等航海士）として安全な運航を確保するため、日頃の業務だけでなくさまざまな訓練や研修も行っています。

大きな船を運航するこの仕事は、とてもやりがいがあります。11人の船員でその喜びを共有し、笑顔になれる雰囲気をつくることも、私の大切な役割です。





# 法令遵守への思い

コンプライアンスはCSRの基本であり、公正な企業活動のよりどころとなるものです。当社はコンプライアンス体制の確立と維持を目的として各種勉強会や強化月間、意識調査を行い、全社員への啓蒙・啓発活動を推進しています。

Compliance

## コンプライアンスへの姿勢

当社は社是「『和』の精神」に基づいた経営理念のもと、コンプライアンスの実践をCSRの一つと位置づけています。コンプライアンスの実践は、企業が社会的責任を果たし、社会から信

頼される企業であり続けるために必要不可欠です。高い倫理観を持ち、法令はもちろん、社会規範から社内規程、また、さまざまなルールやマナーを守りながら業務に取り組んでいます。

## 経営基盤の強化

Compliance

2017/6/30(金)

### 個人情報保護法の説明会

#### ステップごとにルールを徹底

個人情報保護法の改定施行に伴い、社員を対象に説明会を実施しました。説明会では、「取得時の利用目的の特定」「保管」「第三者提供」「開示請求等への対応」の4つのステップごとに、当社の場合の具体例と合わせて紹介しました。漏えいな

どのトラブルが起きないよう、基本的なルールを徹底しています。また、取り扱いに関する規程やマニュアルを社員に周知するため、説明資料を社内ポータルサイトに掲載しています。

2017/9/1(金)~10/31(火)

### コンプライアンス強化月間

#### 各自で学んで法令知識を向上

一人一人がコンプライアンスについて日頃の行動を見つめ直す機会を作る「コンプライアンス強化月間」を毎年9月・10月に設けています。期間中は、コンプライアンス資料の配付や各事業所への啓発ポスターの掲示により、意識の高揚を図りました。

事務職員は社内ポータルサイトに掲載された解説資料を各自で熟読しました。現場で働く社員には、ビジュアル教育資料を作成し、主要な寄り場にある大型ディスプレイに教育資料を映しました。さらに今年は、教育資料の見直しを図り、映像に音声を付けたり、自身の携帯電話でも教育資料を確認できる取り組みを進めたりするなど、より効果的に学べるよう工夫を凝らしました。



ビジュアル教育で学ぶコンプライアンス



2017/ 11/1(水)~11/8(水)

### コンプライアンスアンケート調査

#### 設問に答えて習熟度を再確認

コンプライアンス強化月間終了後には、全社員を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました。事前に公開された解説資料に基づいて勉強し、関係法令に関する設問に回答するものです。

アンケート終了後には、解答と解説を社内ポータルサイトに公開し、誤った箇所を見直せるようにしました。

#### 出題テーマ

- 労働基準法  
(労働時間、勤怠管理、過重労働・健康管理、労働災害)
- 労働者派遣法
- 独占禁止法
- 下請法
- 贈収賄の禁止
- セクハラ・パワハラ・マナー・モラル
- 重要方針

年間

### 勉強会の実施

#### 業務に直結した法令の教育

当社は関係法令を正しく理解し、誠実で公正な企業活動を継続するため、年間を通じてコンプライアンス勉強会を実施しています。業務への理解を深めるとともに、「法令」「規

則」「モラル」の遵守に高い意識を持った企業となることを目的としています。

4月

#### 各種法令

対象者 新入社員

社会人になった新入社員を対象に「コンプライアンスの基礎知識」「会社の組織に関する法律」「取引に関する法律」などに関する勉強会を実施しました。コンプライアンス違反が起きた場合、企業にはどのような影響があるかを、具体的な事例を取り上げて説明しました。

8月

#### 契約書作成の留意点

内容 契約書作成についての留意点の説明および具体事例について

9月

#### 貨物利用運送事業法

内容 貨物利用運送事業法の概要説明および具体事例について

5月

#### 港湾運送事業法

対象者 新入社員

内容 港湾運送事業法などの概要について

1月

#### 港湾労働法

内容 港湾労働法の概要説明および具体事例について

6月

#### 倉庫業法

内容 倉庫業法の概要について

2月

#### 内航海運業法

内容 内航海運業法の概要説明および内航海運に関する諸制度について

7月

#### 港湾運送事業法

内容 港湾運送事業法の概要について



## 誠実な事業活動のために

Compliance

2017/4/1(土)~9/30(土)

### 通関士勉強会

## 国際物流の知識を高め、業務に生かす

国家資格である「通関士」の資格取得を目指す社員に、社内講師による勉強会を実施しています。この勉強会は、関税法や通関業法の理解を深めて資格試験に合格する実力を養うだけでなく、国際物流の知識や法令遵守の意識を醸成することを目的にしています。また、法令知識を身につけることで業務の円滑化を図り、顧客満足度を高めています。

2017年10月の通関士試験では、受講者のうち4人が合格しました。



2017年度の試験に合格した4人の社員

2017/9/22(金)

### 過重労働・ハラスメント問題勉強会

## 社員を守る法律や就業規則

全社員を対象に、過重労働による健康被害などを取り上げた勉強会を行っています。また、過重労働撲滅キャンペーンやストレスチェックを実施しています。これは、2014年11月に「過労死等防止対策推進法」が施行されたことを受けたものです。厚生労働省や各労働局、各労働基準監督署により長時間労働が疑われる事業場に対する監督指導が徹底されています。

ハラスメントについては、2017年に「男女雇用機会均等法」や「育児・介護休業法」が改正施行されました。妊娠・出産・育児休業などに関するハラスメントについて防止措置を講じる義務が課せられたことを受け、法律や就業規則に抵触する行為に関する勉強会を実施し、パタハラ・マタハラについての周知と事例紹介、その他ハラスメント行為(セクハラ、パワハラなど)の事例紹介を行いました。



社内講師によるコンプライアンス教育

毎月実施

### 弁護士相談の実施

## 専門家がコンプライアンスをフォロー

本社で月1回、法律事務所の弁護士を招いて、法律相談会を実施しています。相談会では、法令の解釈や法的リスクの早期発見、コンプライアンス体制に関するアドバイスを行って

ます。仕事でのさまざまなトラブルや悩み事だけでなく、社員のプライベートな案件も受け付けています。

毎月実施

### 健康講話会・個別健康相談会

## 従業員の健康づくりをサポート

労働安全衛生法に基づき従業員の健康を守ることは、企業の社会的責任の一つです。当社は2006年から、「健康教育の日」と称して外部から保健師を招き、「健康講話会・個別健康相談会」を毎月実施しています。健康講話会は「心身両面にわたる健康づくり」をテーマにしています。



### 実施実績

4月

#### 社会人のための健康管理 ～今日から始める健康習慣～

参加人数/19人

新入社員を対象に、健康管理に関する基礎的な知識の説明や、エゴグラムによる性格診断テストを実施しました。また、健康診断の結果の見方を一覧にした健康診断結果ガイドを配付しました。

5月~9月

#### ストレスへの対処法 ～ラインケア編～

参加人数/35人

2016年度に実施したストレスチェックでは、上司のサポートが全社的に不十分な傾向が見られたため、管理監督者を対象に職場環境の把握と改善(ラインケア)をテーマとした講話会を実施しました。

10月~3月

#### 肩こり・腰痛ケア ～運動していますか?～

参加人数/47人

肩こりや腰痛の原因と対処法を解説しました。

その後、シェイプアップやストレッチなどの映像を見ながら、実際にセルフケアを実施しました。



### 個別健康相談会

参加人数/95人

定期健康診断などで医師の所見があった人や長時間労働者らを対象に健康指導を実施しました。

年間

### 内部監査の実施

## 会計・業務監査で経営の品質を高める

内部監査室は、内部統制が有効に機能しているかどうかをチェックするために、組織から独立した立場で監査を実施しています。2017年度は本社地区6部門、支店・出張所3部門、

国内・海外関連会社3社を監査しました。結果は全て経営者に報告し、監査後もフォローアップする体制を整えています。



# 安全の追求・品質の向上

Quality Control

当社は安全な物流の実現のために、日々の安全教育や訓練、現場巡回による点検などの努力を欠かしません。そして安全衛生管理体制や危機管理体制の充実を図り、大切な貨物はもちろん、従業員一人一人の安全確保に最善を尽くします。

Safety Management

## 安全衛生管理体制

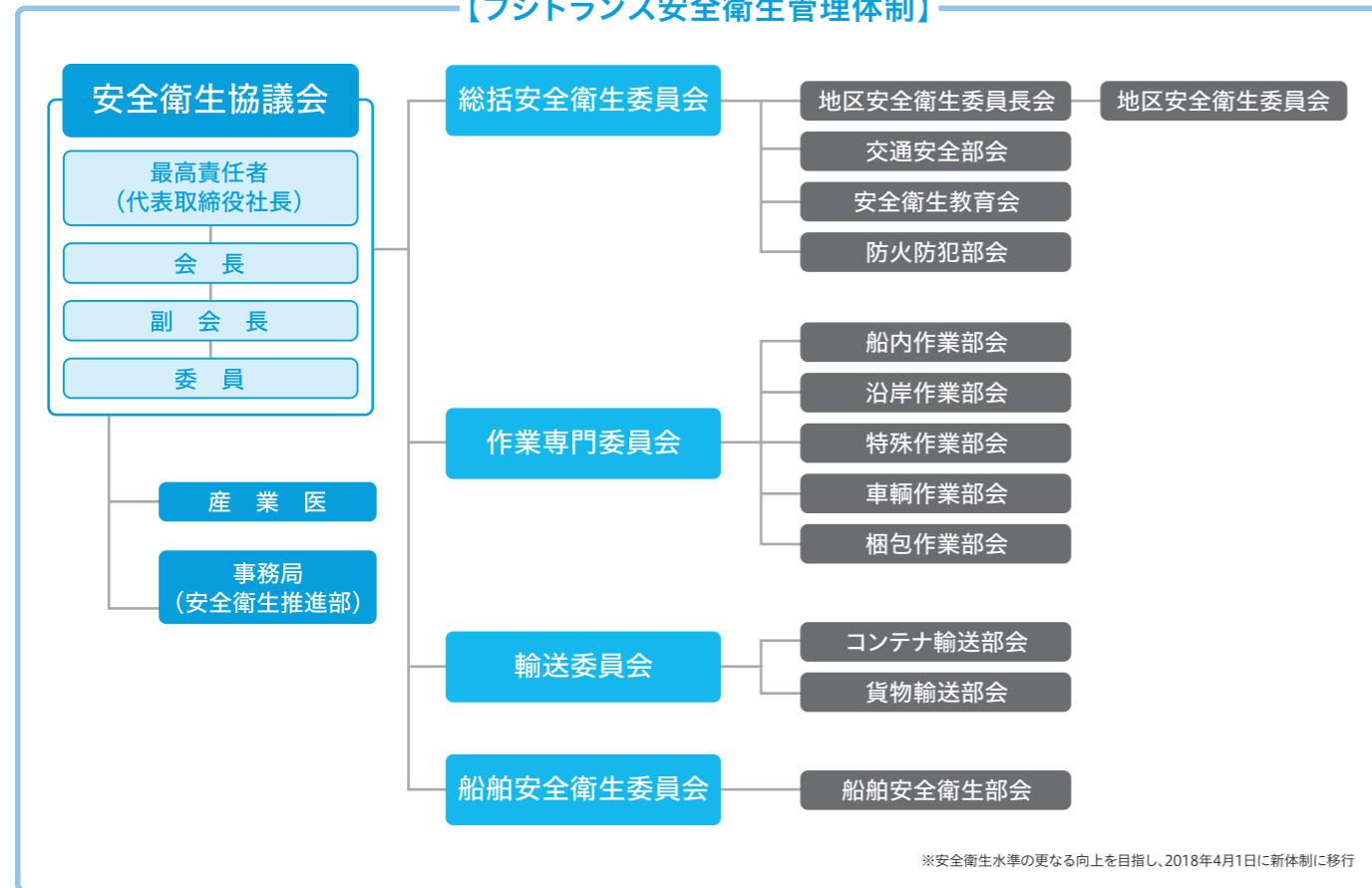
Safety Management & Quality Control

### 万全な管理体制を構築

安全は、総合物流企業としての重大な使命です。  
安全の徹底は、お客さまからの信頼につながり、事業全体の品質を高めることにも通じます。当社では「安全」と「品質」は一体と考え、安全衛生協議会を頂点とした強固な管理体制を構築し、徹底した安全管理に取り組んでいます。



#### 【フジトランス安全衛生管理体制】



※安全衛生水準の更なる向上を目指し、2018年4月1日に新体制に移行

## 各種安全キャンペーン

Safety Management & Quality Control

上期:2017/7/4(火)~13(木)  
下期:2017/12/1(金)~12(火)

### 「ゼロ災」キャンペーン

#### 全ての事故ゼロへ

フジトランスグループでは年2回、全国の事業所を対象に「ゼロ災」キャンペーンを開催しています。従業員一人一人の安全意識を高め、安全で安心な職場をつくることを目的とした活動です。今期は、「進化させ『果敢に挑戦』安全職場」を安全目標に掲げ、期間中には、経営トップ層による現場点検をはじめ、各専門委員会によるパトロールを行い、全ての事故ゼロに向け尽力しました。また、全従業員がゼロ災キャンペーン用のワッペンやシールを身に付け、全員参加で安全意識の向上に努めました。



事故ゼロを目指します

スローガン

上期

過去の教訓活かす今！  
「ゼロ災」が支える明日の信頼

下期

慣れた作業に死角あり  
まずは止まって指差呼称！

2017/10/11(水)~20(金)

### 酸素欠乏症防止キャンペーン

#### 正しい知識と訓練で事故発生を防止

木材チップ船作業における事故の発生を防止するために、酸素欠乏症防止キャンペーンを実施しました。作業従事者への安全教育や各種機器・救命用具の点検を行い、経営トップが船内作業現場を巡視しました。

また、キャンペーンの一環として、取引先やグループ会社にご参加いただき「酸素欠乏症救助訓練」を実施しました。木材チップ船の船内で、チップを掻き出す作業者が酸素欠乏症で倒れたという想定のもと、作業監督者による被災者の発見から救出、心肺蘇生、救急車への搬送までを訓練し、万が一の事態の対応確認に取り組みました。



迅速に被災者を救出する



## 各種安全キャンペーン

Safety Management & Quality Control

2017/11/11(土)

### フォークリフト安全運転強化キャンペーン

#### 競技会で安全運転の技術を披露

キャンペーンの一環として、フォークリフト技能競技会を実施しました。作業専門委員会が毎年主催しているもので、お客さまからお預かりした貨物を傷つけることなく取り扱う技術と、安全運転の意識を確認する取り組みです。

競技会では、グループ会社を含む全国の事業所から選出された代表者が出場し、作業手順と操作の正確性を競い合い、日頃磨いた技術を披露しました。また、出場者たちは会場内に設けた速度体感と死角体感訓練のコーナーを体験し、正確な速度感覚や死角の恐ろしさを改めて実感しました。



貨物に傷をつけることなく搬出



安全で正確な技術を披露

## 船舶安全活動

Safety Management & Quality Control

2018/2/19(月)

### 緊急時海陸通報訓練

#### 洋上での緊急事態に備えて

毎年、当社では航行中の船舶で起こりうる緊急事態に備え「緊急時海陸通報訓練」を行っています。2017年度も、海運事業本部とグループ会社の鹿児島船舶㈱が、九号地分室で実施しました。

この訓練は、仙台港を出港後、名古屋港を目指して航行中の自社船舶「清和丸」内で火災が発生し、乗組員に負傷者が出たという想定で行われました。会議室内で、航行中の船舶側と陸上の事務所側に分かれ、船舶側では関係各署への通報や消火活動、負傷者の搬送手順の確認、事務所側では船舶からの連絡を受け緊急対応チームの発令、合同対策本部の立ち上げなど、それぞれの対応手順を実践して確認しました。



通報に対応する対策本部



船長が火災発生を通報



船舶側から報告を受けた陸上の事務所側



一連の流れを全員で確認

2018/3/7(水)・8(木)

### 経営トップ 乗船安全点検

#### 経営トップ 乗船安全点検

経営トップによる乗船安全点検を毎年行っています。2017年度は社長が2日間乗船し、名古屋から仙台までの航路で安全点検を実施しました。

入出港時の乗組員の的確な作業指示や動作確認、航行中の目視、レーダーによる見張りなどの航行状況を巡視した後、機関室や艙内の4Sの徹底ぶり、貨物の固縛状況を点検しました。

点検後には、乗組員の日頃の労をねぎらい、激励品を贈呈しました。また、年末・年始の停泊中の注意事項などについて意見交換しました。



船長(左)との意見交換



当社社長(右)より激励品を贈呈



機関室の細部まで確認

毎月実施

### 船舶緊急訓練

#### 海難防止に万全の態勢で

海難とは、船員や船体、貨物に損傷を生ずるもので、一度、事態が起これば重大災害にも繋がりがねません。発生要因としては台風などによる気象、海象の影響や操縦判断の誤り、また、搭載機器の整備不良などが上げられます。

このような海難を防止するため、当社の管理船舶では、万一の不測の事態に迅速かつ冷静に対応し、被害を最小限に留めるための、さまざまな実地訓練を行っています。火災・浸水・油流出対応訓練のほか、舵が切れなくなった場合を想定した非常操舵訓練や救命いかだの使用トレーニングなども行います。また、船長を中心に船員法や港則法、海上交通安全法など、座学でも安全の知識や意識を高めています。このような教育訓練で培ったノウハウや改善点を共有し、乗組員全員が一丸となって万全の態勢で安全な海上輸送に努めています。



船長を中心に座学



消火用ホースの点検



油流出防止のため部品を交換



## 安全教育・訓練

Safety Management & Quality Control

2017/8/24(木)・9/4(月)・11(月)・28(木)

### ISO/OHSAS勉強会

## 安全・品質・環境マネジメントを学ぶ

8月・9月に、品質・環境マネジメントシステムの国際標準であるISO9001・ISO14001、そして現在ISO化が進められているOHSAS18001の規格改定勉強会を開催しました。勉強会には外部講師を招き、各部門から管理職を中心に総勢200人程が参加しました。講師が当社の物流サービスに沿った規格解釈をされるなど、解り易く解説が行われ、参加者たちは各規格のポイントを一つ一つ、自部門の業務に当てはめながら、改定規格への理解を深めました。



長時間にわたって規格を理解

2018/2/21(水)

### 安全・安心職場づくり報告会

## 安全安心な職場へ進化

安全衛生協議会主催による、2017年度「安全・安心職場づくり」報告会を開催しました。この報告会は各事業所の危険作業を洗い出し、改善を図り、職場の安全性を高めることを目的としています。スローガンを「全ての事故『ゼロ』へ進化させよう職場の安全」と定め活動を推進しました。海外拠点を含む51事業所の中から13事業所の代表者らが、それぞれの職場の実情に沿った改善活動や成果を報告しました。私たちは、この取り組みを通じて、作業従事者のより働きやすい作業環境の整備やルール作りに役立て、職場安全の進化を絶え間なく推進していきます。



活動報告を聴講する代表者



社長の講評

## 予防安全

Safety Management & Quality Control

2017/9月~12月

### リスクを予見した安全啓発

## 過去の災害を教訓に

CSR推進委員会の安全品質分会では、災害を未然に防ぐ「予防安全」を推進しています。過去に発生した災害や他社事例などから、事故が増加する時期や作業の特性、季節との関連といった発生傾向を分析し、2017年度は安全衛生推進部と連携した安全啓発を実施しました。今回は「フォークリフト作業範囲」への立ち入り禁止を呼び掛け、各事業所では、喚起

内容を作業従事者のもとより訪問者にも周知し、予防安全に努めました。

また、毎月実施している「フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育」では、啓発期間中、座学や実技訓練、体感教育の指導強化を行い、作業従事者たちは安全なフォークリフト運転に必要な知識を再確認しました。



フォークリフト作業 注意喚起ポスター



操作手順を再確認

## 品質向上

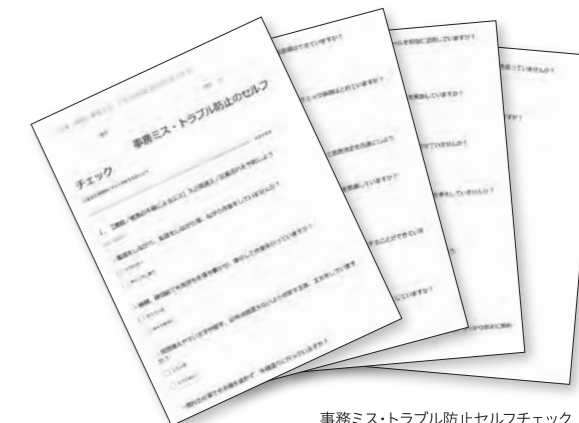
Safety Management & Quality Control

2017/11月・2018/3月

### 事務作業ミス・トラブル防止

## 品質セルフチェック

安全品質分会の2017年度の新たな活動として「事務作業ミス・トラブル防止」をテーマに取り組みました。1回のミスが大きな被害を生む可能性を想定し、「うっかりミスや思い込みミス」といった日常起こりうるミスが、大きなトラブルにならないために、その具体策・事例の「事務ミス・トラブル防止のセルフチェック」を提案し全社に展開しました。この取り組みは2018年度も継続し、従業員一人一人の業務に取り組む姿勢や進め方、職場改善につなげ、当社の事務作業における品質維持・向上に努めていきます。



事務ミス・トラブル防止セルフチェック



# 環境への取り組み・社会地域とともに

Social Action

当社を育てていただいた社会・地域、そこに住む人々に貢献することは、当社のCSRの根源です。環境方針を策定して社員の意識を高め、当社にとって事業を支える大切なフィールドである港や海で、地球環境に配慮した活動を行っています。

Environment Protection

## 環境保全活動

Environment Protection & Social Action

2017/5/19(金)

放流活動

### 小学生らとウマヅラハギ500尾を放流

三重県尾鷲市の賀田湾で、新入社員、地元児童らとともに放流活動を行いました。同市で養殖業を営むグループ会社のエフティアアクア有限責任事業組合と共同開催し、地元住民と連携したCSR活動です。用意したのは、エフティアアクアが養殖したウマヅラハギ約500尾です。一般的には稚魚を放流して成長するのを期待しますが、稚魚は他の魚などに捕食される可能性が高いため、産卵が可能なおよそ160gの成魚を放しました。ウマヅラハギはもとも賀田湾周辺に生息しているので、放流した魚が産卵し数が増えれば、生物多様性の保護につながります。

放流に参加した賀田小学校と三木小学校の児童らは、魚にほとんど触ったことがない様子で、バケツの中で泳いだり跳ねたりする魚をおそろおそろ手づかみして、1尾ずつ海に放していました。



2017/5/25(木)・11/10(金)

足船清掃

### 定期的に海上をきれいに

春と秋の毎年2回、各部署から従業員が参加して名古屋港内の清掃活動を行っています。この活動は、会社の足船に乗り、海上・河川に浮かぶゴミをタモ網で拾い集めるものです。

海上には川上から小枝や廃材、生活ごみなどが流されてきていました。タモ網ですくいきれない大振りの枝は、二人で協力して両端をタモ網で持ち上げるなど、工夫しながら回収しました。

名古屋港の海がもっときれいになるよう、今後も継続していきます。



2017/6/19(月)~21(水)

新入社員グリーンオリエンテーション

### 自然環境の大切さを学ぶ

新入社員研修の一環として、新入社員ジェネラリスト18人が北海道でグリーンオリエンテーションに参加しました。

この活動は、植樹体験を通じて当社の環境保全活動を理解し、環境の大切さを学ぶことを目的としています。また、CSR活動や植樹活動など、新入社員全員が同じ作業を行うことで、強い結束を促す場ともなっています。

初日は、農業・畜産を営むグループ会社の(有)厚真ファームで畑作体験や、畜産現場の見学を行いました。

2日目は、岩内郡共和町にある社有林「フジツの森」で地元森林組合のご協力の下、植樹活動を行いました。植樹後には「会社が実践する新たなCSR活動の創出」をテーマに4班に分かれてCSRディスカッションを行い、それぞれの意見を発表しました。

今回のCSRディスカッションを通して提案のあった「被災地支援のためのバザー参加」は新たなCSR活動の取り組みとして実施されることになりました。



## 社会貢献活動

Environment Protection & Social Action

2017/4/16(日)・7/9(日)

清掃奉仕活動

### 清掃活動で美観の維持に貢献

福井県勝山市の平泉寺白山神社で毎年2回、清掃奉仕活動を行っています。平泉寺白山神社は、717年に開山され、2017年に1300年を迎えた霊峰白山の信仰の拠点として由緒のある寺社です。境内には一面にコケが広がって美しい景観を作り上げ、現在は社務所になっている旧玄成院の庭園は国の名勝に指定されています。

参加した社員は、自然景観豊かな白山平泉寺旧境内で行われる大祭に向けて社務所周りを掃除しました。コケを剥がさないよう、木くずや落葉を集めた後には、拝殿にお参りして心も清めました。



2017/7/18(火)・11/20(月)

ISO周辺美化活動

### ゴミのない地域社会を目指して

ISO環境活動の一環で、事務所周辺の清掃活動を行っています。

7月は事務所の近くで開催される「海の日名古屋みなと祭」の後にたくさんのゴミが落ちていることを踏まえ、その翌日に実施しました。参加した各部の代表者らは、炎天下で汗を流し、約1時間で45ℓのゴミ袋13袋分ものゴミを集めることができました。地域の方に「ありがとう」と声をかけていただくなど、やりがいを感じられる活動となりました。

11月は飛島地区周辺の清掃活動を実施し、燃えるゴミ10袋、燃えないゴミ7袋を集めました。道路沿いには、空き缶やペットボトル、たばこの吸い殻の他に、家庭ゴミや粗大ゴミなども多く捨てられていました。

これからも、ゴミのない地域社会を目指して、清掃活動を実施していきます。





2017/8/1(火)・8/30(水)9/22(金)・10/12(木)・11/24(金)・2018/1/25(木)

小中学生社会見学

物流の現場を見学

当社は、社会貢献活動の一環として、社会見学や体験学習を積極的に受け入れています。

9/22(金)には愛知県南知多町立日間賀小学校5年生の児童26人、10/12(木)には三重県東員町立神田小学校5年生の児童67人、11/24(金)には岐阜県養老町立上多度小学校5年生の児童13人が社会見学で九号地分室を訪れました。社会科の授業の一環で自動車工場を見学した児童は、完成車が全国に輸送される物流について学びました。

また、バスの中からヤードや本船荷役の様子を見て楽しみながらも、真剣にメモを取っていました。質疑応答の時間には物流についての多くの質問が、予定時間に収まらないほど

寄せられました。

1/25(木)には名古屋市立今池中学校の1年生6人が本社を訪れました。総合的な学習の一環で、生徒が自主的に進路を選択し、社会人・職業人として自立していけるような職業観の育成を目的とした職場訪問や体験学習です。

「日本と海外を繋ぐ企業」をテーマに、当社と海外拠点の業務内容や、物流を通じて世界の国々どう関わっているかを学びました。

この他、8月には水島支店でも協力会社の家族の本船見学や、地域小学生と保護者の現場見学を受け入れました。



小学生社会見学



中学生職場訪問

2017/8/1(火)~9/29(金)

物品収集ボランティア

身近なものを震災の復興支援に充てる

当社は、東日本大震災の復興支援として業界団体が主催する「絆をたいせつにした」物品収集ボランティア活動に賛同し、今年も社員からテレフォンカード、ベルマーク、使用済み携帯電話など、多くの物品を集めました。

収集した物品は、愛知県社会福祉協議会を通して岩手県社会福祉協議会に寄付しました。

【収集結果】(フジトランスグループ合計)

収集物品	個数	金額
不用携帯電話	84台	4,200円
書き損じハガキ	258枚	11,610円
未使用ハガキ	266枚	13,300円
未使用切手	55枚	3,496円
未使用テレフォンカード	7枚	3,500円
未使用クオカード	2枚	1,500円
未使用図書カード	5枚	2,500円
ベルマーク	6,248.2点	6,248円
合計(換金後の実績値)		46,354円

(昨年38,598円)

2017/8/25(金)

現場見学会

社員の家族が物流の現場を見学

社会貢献の新しい試みとして、社員のお子さんを対象とした現場見学会を行いました。物流業界ではドライバー不足や船員不足など、労働力の確保が重要課題になっています。そのため、将来の担い手になる子供たちに、見学会によって物流や



港湾の仕事に興味を持ってもらおうと企画したものです。

児童らは、飛島コンテナ埠頭(株)で自動化ターミナルについて学んだり、九号地分室で作業中の内航船の近くに行き、車や貨物が艀内に積み込まれる様子を見学したりしました。



2017/12/11(月)~26(火)

児童福祉施設支援

児童らにクリスマスケーキを寄贈

地域社会との交流活動として、児童養護施設にクリスマスケーキを寄贈しました。

毎年、名古屋市内の児童養護施設で開催されるクリスマス会に合わせてクリスマスケーキやパンを贈呈し、役立てていただいています。今年も2週間にわたり、班に分かれて各施設を回りました。最終日には、クリスマス会のステージに招かれ、児童やご家族に感謝される場面もありました。



毎月実施

交通安全街頭立ち会い

交通事故のない社会を目指して

交通安全部会が主体となって、事務所付近の交差点で交通安全街頭立ち会いを行っています。

街頭立ち会いは、交通事故死ゼロの日(0が付く日)に合わせて実施しています。また、愛知県の交通安全県民運動に合わせて4月、7月、9月、12月にも実施しています。

愛知県の秋の交通安全運動では、本社地区、九号地地区、金城地区の交差点で、夕方の帰宅時間に合わせて街頭立ち会いを行いました。当社取締役をはじめ、グループ会社を含む各部の代表者35人が参加し、通行者に見えるようにのぼりやプレートを掲げ、シートベルトの着用、交差点での一時停止など、交通ルールの徹底を呼びかけました。



交差点で通行者に呼びかける



## 1 森を守る活動

● 新入社員グリーンオリエンテーション  
フジツブの森 植樹実績 (本)

	造林	環境教育他	計
2014年度	20,950	70	21,020
2015年度	7,980	70	8,050
2016年度	0	70	70
2017年度	10,220	70	10,290



## 2 海を守る活動

● 足船清掃

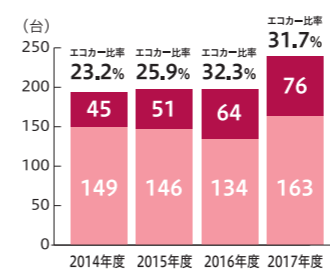


● 放流活動

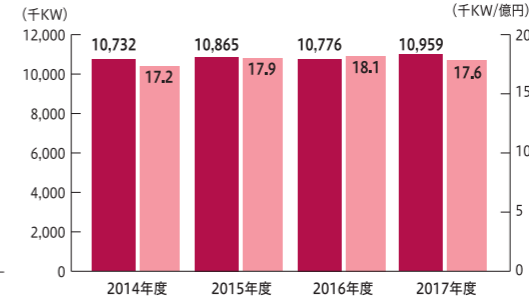


## 3 省エネ活動

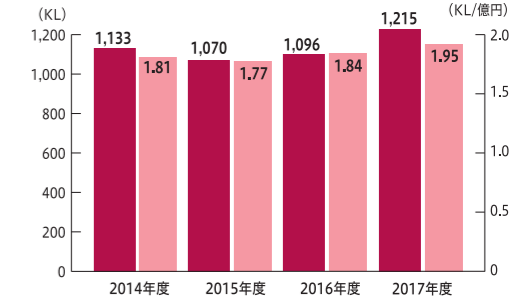
● 社用車に占める  
エコカー比率の推移



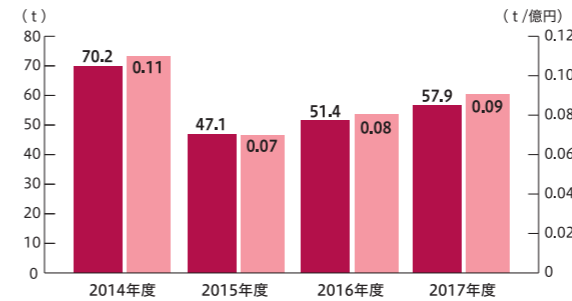
● 電気使用量の推移



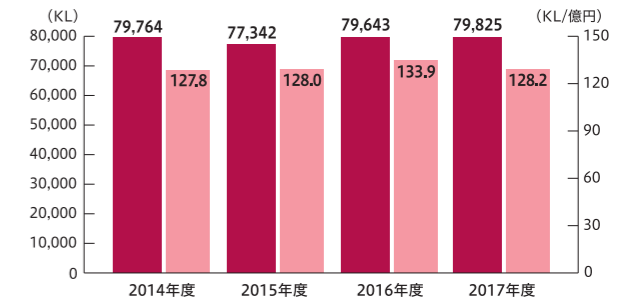
● ガソリン・灯油・軽油使用量の推移



● LPG使用量の推移



● A・C重油使用量の推移



1

3 4 6

5

2

3

5

## 4 地域貢献活動

● ISO周辺美化活動



● 清掃奉仕活動

● 交通安全街頭立ち会い



● 物品収集ボランティア

● 小中学生社会見学



● 児童福祉施設支援

● 現場見学会



## 5 安全品質のための活動

● 「ゼロ災」キャンペーン



● 経営トップ 乗船安全点検



● 緊急時海陸通報訓練



● 酸素欠乏症防止キャンペーン

● 船舶緊急訓練

● フォークリフト安全運転強化キャンペーン

● リスクを予見した安全啓発

● 事務作業ミス・トラブル防止

## 6 法令遵守の活動

● コンプライアンス強化月間



● 健康講話会・個別健康相談会



● 個人情報保護法の説明会

● 各種勉強会

● 内部監査の実施

● 弁護士相談の実施